

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 羽衣学園中学校高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 592- 0003

大阪府高石市東羽衣 1-11-57

E-mail tanaka_jnchr@hagoromogakuen.ed.jp

Website http://www.hagoromogakuen.ed.jp/index.html

幼児児童生徒数 男子 473 名 女子 776 名 合計 1249 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「世界へ羽ばたく人材の育成」を学校理念としており、ESD を「人とのつながりを軸に、世界で活躍できる生徒を育む教育活動の実践」と捉え、ESD の実践を通して「多様な人間性の育成」と「英語力の養成」を目標とした教育活動を実践した。

具体的には、国内外を通じた国際交流を柱に、①寺子屋リーフレット作成活動、②海外派遣事業を通じての国際交流、③校内での国際交流を軸に活動を行った。

① 寺子屋リーフレット作成活動

○高 2 全クラスで実施。ユネスコについて深く学ぶ授業を展開。

例年の恒例行事として、今年も、日本ユネスコ協会連盟主催「2017 年度リーフレット制作プロジェクトコンテスト」への応募を行った。本事業では、授業の最初に「ユネスコとはどんな団体か」、「ユネスコとは何の略か」という本校オリジナルのプリントを生徒に配布。じっくりと時間をかけながら、貴団体の発足の

歴史や、世界を取り巻く問題などについて理解を深めていった。授業の最後には学習のまとめとしてリーフレットを作成し、貴団体へ提出を行った。その結果本校生徒2名（2年M組の生徒1名、2年L組の生徒1名）が奨励賞を受賞した。

② 海外派遣事業を通じての国際交流

○ベトナム相互派遣事業に参加。国際交流の重要性を発信。

本校では例年様々な海外派遣事業を通じて国際交流への理解を深めている。今年は大阪府相互派遣事業の取り組みとして、本校の代表生徒とベトナム人学生による相互派遣、国際交流を行った。ベトナム国内の高校や大学でプレゼン発表を行うことで、お互いの国について理解を深めることができた。また、帰国後は全校生徒に向けてまとめ報告会を行うなど、校内の生徒に向けても国際交流の大切さを啓蒙することができた。

③ 校内での国際交流

○海外より複数の学校が来校。本校生徒との交流を深めた。

本年も、海外の学校より多くの生徒が来校し、本校生徒との国際交流を図ることができた（中国、台湾、韓国を中心とする合計9校の学校より多数の学生が来校した）。本校の講堂にて歓迎セレモニーを行った後に、グループに分かれて生徒同士で交流をする、という流れで交流を行った。セレモニーでは海外の学生による英語のプレゼンテーションを鑑賞することで、海外の学校教育について理解を深めることができた。また、グループ交流ではお互いの国の伝統的な遊びを紹介しあうなど互いの伝統文化について知ることができた。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)

③ の写真 (キャプション)



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

・「ユネスコスクールへようこそ」：持続可能な開発のための教育
URL : <http://www.unesco-school.mext.go.jp/esd/>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校ではユネスコスクールの活動を「気軽に誰でも参加できる国際貢献」として位置づけ、その中で社会科と情報科の授業を中心に国際貢献の重要性を生徒に向けて発信している。ボランティア部や ESS 部に参加している一部の生徒ではなく、「全校生徒が世界のために働きかけをしないとイケない」という意識を植え付けることを目的としているため、「リーフレット制作プロジェクトコンテスト」は高校2年生の生徒全員がコースを超えて作品制作を行った。また同時に、ユネスコ憲章の意義やユネスコの成り立ちについてプリント学習を通じて理解を深め、「一生徒として世界に発信できる国際貢献」について生徒へ考える機会を与えることができた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

○ 対 生徒について

寺子屋リーフレット制作プロジェクトコンテストで奨励賞を受賞した生徒を終業式で表彰した。また、本校校長よりユネスコ活動の取り組みや意義について全校生徒を対象に説明を行った。

○ 対 教員について

国際交流課の会議や情報科の教員を発信源とした啓蒙活動によって、寺子屋リーフレット活動の意義や趣旨について教員への発信を行った。また、学内のポータルサイトを通じて、全教員へ活動の取り組みの共有を行った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

前提として、内部を対象とした学校評価のみに依拠している、というのが現状の課題である（内部による学校評価の具体的な方法として、国際交流課の教員や授業を展開している情報科、社会科の教員へのヒアリングを行っている）。また、私立学校ということもあり、学校行事や校務とユネスコスクールの行事がかぶってしまうことが多く、なかなか外部のユネスコスクールとのつながりを持たなかったということも課題点として挙げられる。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校はESDを「人とのつながりを軸に、世界で活躍できる生徒を育む教育活動の実践」と捉え、ESDの実践を通して「多様な人間性の育成」と「英語力の養成」を目標とした教育活動を行った。それらを幅広く発信するべく、本校のブログや保護者へ向けたポータルサイト等で告知し、保護者や地域住民への周知を行った。このような活動を経て、保護者の方々が積極的にホームステイの受け入れを行ってくれるようになるなど、国際教育への協力体制が徐々に整っていくような変化があった。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

平成29年度、本校は併設されている羽衣国際大学との交流を行った。大学で勉学に励む留学生と本校の学生とが交流を図ることで、他国を尊重する態度を養うことができた。また、ボランティア部の生徒を中心として大阪府赤十字活動に参加し、「献血活動」や「防災」をテーマに他校の学生との協働学習を行うことができた。その他、高石市との姉妹都市であるアメリカロミタ市との交流やインターアクトクラブの交流、浜寺公園ボランティア活動参加など、多岐にわたって活動を行った。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

本年度はやむを得ずユネスコスクールとの活動やネットワークを発展させることができなかった。しかし、姉妹校の台湾の高校や海外の学校との国際交流をする際には、ユネスコ憲章や意義を念頭に置いたうえで、他国の生徒と積極的に交流を図ることに力を注いだ。また、情報科の授業ではユネスコ憲章に関する事前学習プリントを生徒へ配布し、他国の教育や文化を尊重する態度を養う必要性を訴えた。その結果、海外の学校と交流を図る中で、ユネスコ憲章の重要性について理解を深め、また、他国の学生に対してもその重要性を発信することができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

本校の教育目標「他国に人々の文化や生き方に学び、広い視野に立って地球環境と平和を守るために世界の人々と協力できる人間を育てる」とユネスコスクールの理念はリンクしている。ユネスコの活動に取り組むことで、学校のスクールアイデンティティを常に自覚させ、学習活動の中にグローバルな視野を意識させることが可能となっている。結果として、国際交流活動やボランティア活動、英語など外国語の学習に積極的に取り組む生徒が増えるなどの効果が表れている。

※チェック事項 2-5 に対応

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も本校の学校理念である「世界へ羽ばたく人材の育成」を軸に、E S Dを「人とのつながりを軸に、世界で活躍できる生徒を育む教育活動の実践」と捉え、E S Dの実践を通して「多様な人間性の育成」と「英語力の養成」、ならびに「国内外のネットワークを通じた多面的な学習」を目標とした教育活動を実践したいと考える。

具体的には、「国内外を通じた国際交流」を柱に、①ユネスコスクールとしての活動の強化、②海外派遣事業を通じての国際交流、③校内での国際交流、④部活動を通じての国際交流の4点を軸に活動を展開したい。とりわけ、④の部活動を通じての国際交流では、ユネスコ憲章の理念を国内のみならず世界へ発信するために、まずは校内での勉強会により力を注ぎ、制の意識をより高めたい。併設大学とのつながりをより密にするなど、年齢を越えて様々な世代と交流ができるように努めたい。